

熊本県立荒尾支援学校進路便り 3月号 (NO. 35)

わーく&らいふ

平成31年3月11日 進路指導部 発行

■ CONTENTS ■

★特集 先輩保護者からのメッセージ

★特集 先輩保護者からのメッセージ ～アンケート「後輩保護者へ伝えておきたいこと」集計～



今回は毎年恒例の企画「先輩保護者からのメッセージ」を特集します。このメッセージは、高等部3年生保護者の皆様から後輩の保護者の皆様に、人生の先輩として、子育ての先輩として、そしてお子様の進路選択に向けて取り組まれた先輩として、卒業という節目に当たっての様々な思いを綴っていただいたものです。

少し先を歩く先輩達の「生の声」はきっと、下級生保護者の皆様にとっても、私達教師にとりましても、大きなみちしるべとなるはずです。どうぞ、先輩方の今の心情に「思いを馳せながら」お読みください。

メッセージその1 進路選択で大切にしたこととは？

◆本人の意思を尊重して選ぶ

- ・一番大切にしたのは本人の希望です。今まで行った実習先のどこへ行きたいか聞き、保護者の希望とも一致したので決めましたが、一番は人間関係で、次に仕事のやりがいなどが決め手になりました。
- ・進路は本人が決めました。やりたいことを言えたことに驚きました
- ・子どものやりたい仕事を探しました。

◆本人の適性を第一に選ぶ

- ・本人にどんな仕事合うのか何をしたいのか見つけるのが難しかった。
- ・本人の力を発揮できるところを選びました。
- ・本人に合っているところかどうかを考えました。
- ・させたい仕事（行かせたいところ）とできる仕事は違うので、本人が無理せずに行けるところを選んだ。
- ・楽しんで通えるところを選びました。
- ・実習先での様子を聞いて、本人がスムーズに行けるところを考えました。

◆通いやすさ

- ・自宅から通いやすいところを探しました。

進路選択に関するまとめ

お子様に合った「進路」を考えるに当たってやっておきたいことが二つあります。

①進路について知ること

ひとつめは、親や家族が「進路」について詳しく知っておくことです。本校では「進路だより」「福祉サービス事業所説明会」「ハートフルシンポジウム」などを通じた進路情報の提供を積極的に行っています。

お子様が小学生のうちからこの機会を活用して進路について学んで参りましょう。各学部「進路指導部員」がおりますので、知りたい情報がありましたら遠慮なくお尋ねください。

②「選ぶ」ことの経験を。「選ぶ方」も教える必要があります。

学校生活を見てみますと「自分で選ぶ」ことが苦手な子どもが、実に多いからです。お子様が小さいうちから、いろいろな場面を利用して、選ぶ経験を積ませておきたいものです。

また、子どもたちは必ずしも合理的で正しい選択をするとは限りません。ですから、「選ぶ」経験をさせるということは、すべてを子どもの意のままにすることではなく、「なぜ」選ぶのか。その選択を「親としてはどう思うのか。」きちんと向き合い、助言していったこそ初めて、合理的選択力がついていきます。



メッセージその2 卒業の節目に感じることは？

①家庭の取組でやって良かったと思うことは何ですか？

◆よい習慣作り

- ・よい習慣づくり
(早寝早起き、食器の片付け、靴やズボンの脱ぎ履き、トイレのウォッシュレットなど)
- ・自分で目覚まし時計をセットして起きる習慣
- ・自分でできることは自分でさせる。
- ・自分でできることを増やす
- ・一日の流れを変えずに本人のペースに合わせるようにしてからは、いやがらずに自分でスムーズに着替え等ができるようになった。



◆家事・手伝い

- ・家の手伝いで皿洗いや洗濯物の取り込みなど本人の仕事として取り組み、自分からやってくれるようになりました。
- ・家の手伝いをさせる（親がした方が早いですが、できる仕事は時間がかかってもさせました。）
- ・家事を一緒にやり、（デイサービスの事業所とともに）やればできる、できたらご褒美、楽しくできること。
- ・料理・掃除・洗濯を一緒に楽しみながらできたことが良かったと思います。



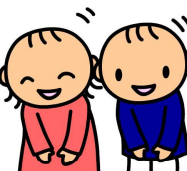
②学校の取組で身につけた大切なことは何ですか？

★時間の感覚

- ・腕時計で時間を確認し、次の作業への切り替えが以前よりスムーズになりました。

★ルールやマナー「キャリアアップ・チャレンジ5」に関すること

- ・元気な挨拶、ていねいな言葉遣い
- ・あいさつ報告、礼儀、敬語
- ・ルールやマナーをたくさん身につけ、自分でできるところはがんばってできるようになったこと。



★スモールステップで少しずつ成長

- ・苦手なことに逃げず、少しでもできることから始め、ゼロでなく、1、2、3と力をつけていただいたこと。
- ・生活して行く上で大事なことを繰り返し指導していただきました。

★対人関係・やさしさ思いやり

- ・他人を思いやること
- ・コミュニケーションが少しずつできたように思います。

★将来への見通し

- ・中学で仕事に向けての楽しみを学び、高等部で実習をし、卒業後の進路へと本人が考えることができたと思います。

③もっと力を入れておけば良かったと思うことは何ですか？

- ・交通機関を使って一人で外出すること。
- ・姿勢を正すこと。
- ・運動。
- ・兄妹との関係。
- ・パソコン操作など、漢字英検等何かしらの資格を取らせていきたかった。
- ・コミュニケーションや生活ルールに対してもっと力を入れておけば良かったと思います。



- ・集中力が必要です。
- ・あきらめてしまうことがあるので、あきらめずにもっとがんばるようにしておけば良かったと反省してしまいました。

メッセージその3 その他後輩に伝えたいことは？

●先生と話し合いましょう

- ・自分で希望が伝えられないならば保護者が先生と相談して決めていいと思いますが、本人がどうしても合わなければ合うところを探してあげてほしいです。
- ・先生に何でも相談すること。
- ・実習の時間を大切にしてほしいです。



●早い早い情報収集

- ・3年間はあっという間に過ぎます。就労に向け1、2年の時から子どもに会う仕事等を見つけ、いろいろな情報を知る。
- ・あっという間の荒支生活でした。

●泣き笑いの毎日。家族みんなで

- ・つい厳しく叱ったり当たったりしました。子どものかえを見ると反省しました。毎日泣いて笑っての日々です。くれぐれも自分の身体も大事に家族みんなで健康で支えてください。



●何にでもチャレンジ！

- ・とにかく何にでもチャレンジして、一つでも自分でできることを増やしてほしい。一人で生きる力をつけてほしい

<編集後記>

高等部3年保護者からのメッセージはいかがでしたか？親としての「がんばりポイント」やお子様の社会参加に向けて「つけた力」が、具体的な経験を元にたくさん語られていましたね。

特別支援学校は、小学生から高校生までの12年にわたる子どもたちが学ぶ場です。ですから親の経験もさまざまです。

だからこそ、小学生の保護者の皆様にもこのような形で、最上級生保護者の思いを知り、我が子の今と重ねて将来を想像できるチャンスがある。このことは特別支援学校の良さです。

保護者の皆様お一人一人が、すべての生徒の進路を大切に思うARA・SHIの伝統をこれからも大切にして参りたいものです！（谷口）

